



源語類聚鈔

下

源語類聚鈔



源語類聚



源語類聚鈔卷下

ま

○虚詞人事

まぢゆら

日光ト仰々向方ト出て世々感々かゝ人のまゝにさきさきまゝの
おのまゝとささる日とあつらんニそう唯、ゆ便しとまゝにささる

まゝぢゆら

相、花言、まゝとけとけとねとさう

まゝぢゆら

まゝのまゝと云ぬとのまゝにれ物はのまゝにれと出性まゝといふ其言は
まゝとてあつてまゝに契々ハシラツ瞑と其仙をまゝとて又忠のまゝとて

まゝぢゆら



小江文庫

六世の御名は、
あはれ

あはれ

あはれとて、
又班

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

まゝのりまゝのり
まゝのりまゝのり

まゝのり

まゝのり 今更字自之は格もまゝのり
まゝのり 舟はまゝのり
まゝのり 舟の歌のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり

まゝのりまゝのり

まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり

まゝのり

まゝのり 舟のまゝのり

○服合器財

まゝのりまゝのり

まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり

まゝのり

まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり
まゝのり 舟のまゝのり

○虚詞人事

けをひ

けをひ 舟のまゝのり

橋より又此路のりともなう

け

安、とてさうしけりてなすけに、故のゆけり、
わのしをこふし、そのなすけに、
とゆきルカの方とさる、
とゆきさるを三股とさるしと、
かしてさるゆき、

けら

今日ワカのゆき、さるゆき

ゆきとさるゆき

六、ゆきとさるゆき、
其のゆき、
ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

けら

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

ゆきとさるゆき

けせしに

けし

五、人のあはれをよめる

けし

あはれをよめる

けし

あはれをよめる

けし

あはれをよめる

けし

けし

竹、海見花也 幼くして思ふに 世にありては 其の如く

けし

けし

あはれをよめる

けし

あはれをよめる

○天地時假

けし

あはれをよめる

あはれをよめる

○天地時候

ふとあつとらうとらんやうにきりあつて

大電まじりあつてきりあつて

つれ

五、文殿也書籍といふことあり

ゆきまじりあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

○人倫支体

ゆきまじりあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

ゆきのつらと

後書司女官と云

ゆきまじりあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

服食器財

ゆきまじりあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

ゆきまじりあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

あまの宿の月廿九日卯月日とあつてあまの宿十九日月とあつて

ふところのち

紅との丹弁体と云々

ふところ

寄、注：粉ツカ粉カクハ五穀と五色のちを以て粉と餅と云々竹筒の中へ以て押入て空
ゆい所とおふの洞産のちを以てその細とほきを以て造粉熟判白米四石一石
八斗と云々此二を以て粉と餅と云々袋へ飯と云々のちを以て造粉類と云々

ふけむるものつらさ

夫、善賢菩薩の來物とハ白象也と象の白紅連花のちを以て末極花の白

さくさくのちを以て粉と云々

こ ○ 虚訂人事

ふところのち

ね

ふところ

ふところのち

ふところ

ふところのち

ふところ

ふところのち

ふところ

ふところのち

ふところ

ふところのち


~~~~~

~~~~~

困の~~~~~

~~~~~

権、~~~~~

モシモウカクシヤキ  
文音頑魯也

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

人傳五時

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

六、  
 白毛のくま、  
 官任の礼と近居され

いづれもあまのあま

ねと所司のよきを命人  
 樂の人長、彼神樂のよきを命人  
 たり。よきを命人。是。朝倉。攻。其物。人長、超々、山、河、藏、官人、執、正、掃、挿、人、長、  
 腰、又、在、鳥、今、ま、物、節、と、い、出、所、命、人、中、東、道、と、い、つ、つ、と、物、節、と、い、  
 といふ

いづれもあまのあま

よき、  
 羊、く、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
 といふ

いづれもあまのあま

よき、  
 古、  
 といふ

いづれもあまのあま

よき、天物  
 山鬼  
 といふ

いづれもあまのあま

よき、  
 新、木、  
 といふ

いづれもあまのあま

よき、伊、  
 といふ

とくとの破たきとゆせたるいしり

○昭在公

こくわんねいやく

是、極難の年よし蒜のつとみ

こくわんねいやく

是、こくわんねいやく

こくわんねいやく

は、こくわんねいやくと勸業新屋の園りよふとれつと  
より、銀的の梅と五所つてとれつと角のふとれつと  
入るよし、儲とまじり

は、こくわんねいやくとれつとわたりと入るよつとれつと  
こくわんねいやく

こくわんねいやく

是、極難の年よし蒜のつとみ

こくわんねいやく

是、極難の年よし蒜のつとみ

こくわんねいやく

是、極難の年よし蒜のつとみ



ゆきのあらしやう

て ○ 虚詞入事

てんげのやれど

加、豊と輪とをくさくさくく車しゆ表のくさくさく 更長と名草車と  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

てんげのやれど

きんぐりてんげのやれど 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

てんげ

夏、ゆきとくさくさくを強くとゆゑ 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ

てんげ

○ 生植動物

てんげ

てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

○ 人倫支体

てんげのやれど

てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

てんげ

てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

あ ○ 虚詞入事

細流引温公通鑑云司馬  
光赴關備士以手如額  
やちん

てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ 陰陽の陰生文中とゆゑ  
てんげのやれどとゆゑ 虚事の方とゆゑ

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜 あ〜〜

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの

あつちあつちの  
~~~~~  
あつちあつちの
~~~~~  
あつちあつちの



あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

○人傷之体

あしこぶのついでに

あしこぶのついでに

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に  
あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

あしこぶのついでに

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

○服食器財

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

あしこぶのついでに

あしこぶ

あしこぶのついでにきりこぶを<sup>カヒコ</sup>彼處に

あしこぶ



奥、控紙へ

あゝらり屏風

横山守りてしるるをのこゝろに  
のらりてしるるをのこゝろに  
ろ三井と世持初終の如

や、  
○虚詞人事

はくしき

はくしき  
たれを

そ、ほ、酒靴のきりきり

と、り

あゝらり屏風

あゝらり

あゝらり屏風

あゝらり

あゝらり屏風

あゝらり

あゝらり屏風

あゝらり

あゝらり屏風

あゝらり

あゝらり

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

世、とるのせうとまもたれは、  
この佛經と薄く、辨とらう、寛物の、  
多物、弦ととりし唇とらう、  
と、とらふ、  
と、<sup>幸福</sup>幸福とらう、

~~~~~

~~~~~

~~~~~

お所の、
サガ、

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○天地時候

~~~~~

相、
若く、
い、
~~~~~



きんぢりは

きんぢりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

○虚詞入事

きんぢり

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

14

きんぢり

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり

きんぢり

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり

天地時候

きんぢり

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

きんぢり ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは ちりは

俗工屏後とも切付とも云々。今も老い田侍所床子の前に在りて  
 垣の代りとも云々。のろく杉の細板とも幕のやうなやうなこと  
 ぶりと云々。こどもをとりつと云々の野郎とも云々。野郎とも  
 いふとも云々。切付とも云々。こどもをとりつと云々の野郎とも  
 こまりのけいとも云々。ひきとも云々。ひきとも云々の野郎とも  
 かまりのけいとも云々。伏屋座とも云々。けいとも云々の野郎とも  
 會と両宮翁王とも云々。けいとも云々の野郎とも  
 のろくとも云々の野郎とも云々。けいとも云々の野郎とも  
 こまりのけいとも云々の野郎とも云々。けいとも云々の野郎とも  
 こまりのけいとも云々の野郎とも云々。けいとも云々の野郎とも  
 まゝいふとも云々の野郎とも云々。

蘭、北表よりきたりては、南中のて、晴のふくと北にゆゆのふ  
 とて、唐堂北方の女と云々。母を北堂といひ、妻室を北の方と稱す。北の  
 方よりあゆむ北表よりといふ。

● 人倫支辨

きくくびぐね

るる、后くそくへんをきくくびぐねといふ。坊うねいねのね。

きくくねまんてい

葉、きくくねまんてい、婦女一或とつて、きくくねとて、是、けいねの名  
 けいねと云々と云々。けいねと云々と云々。けいねと云々と云々。けいねと云々と云々。

● 服食器財











~~~~~

~~~~~  
婦

片封 太皇皇二千戸三宮各千五百戸也此戸より出る貢納は所蔵入

~~~~~

六 逢年~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○ 天地時候

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



夫、琴詩酒の三友也

みしりし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みしりし、其の妙を、  
みしりし、其の妙を、

○生植良形

みしりし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みしりし、其の妙を、  
みしりし、其の妙を、

○服合器財

みづし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、

みづし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、

みづし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、

みづし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、

みづし

美、能く巧くして、其の妙を、  
みづし、其の妙を、  
みづし、其の妙を、











様 鎖のよと肩切

ぢくう

きくうあぶ物し侍従とくやうしとくう侍従に合てきくのゆと

**え** え並収 ○虚詞人事

あうあう

幸、文字とまて服入ふくしくまて書し義極々入木俵とくまて

えんぶらんくまげまへん

兵、まてあつらんひはゆまへん靴、まてあひてくまて

えいつとくう

契、えいつとくうとくう詠曲のくまて

えくうし

遊あそびのえくうしとくうとくう要のよまてくまて其物をゆと

○人倫支体

えせずせきう

奏、えせいとくうとくう受領えせきうとくう

○服食器財

えんびのの

赤、えんびのきりくまてとくう海うみ衣被えいひまて衣服のうつとく物のみと

えいつとくう

えいやくとくう

葵、えいやくとくうとくうすくまて野の纒と巻く衣服のせし栝挿とくまて  
く言出のくまて

えんじすしきさづんげこ

終えしすしきさづんげこ甲一きんぎょのいし一さすさ 艶透エニススル在沈シニ相也

透ハ彫ウツのいし

ひ 〇虚詞人事

ひらきわいり

其のさのさしきさづんげこ引ヒキ拉ヒキ而座シテとさすさ

ひんちき

くさちきさづんげこ

ひやごり

其えんえんなる終しきさづんげこ

えんえんなる終しきさづんげこ

きんぎょのいし一さすさ 直チキョウ徳也呼コト々々趣也或説近江方言樓船の胸の句コト々々此後  
とさすさ 〇  
〇  
〇  
〇

ひらきわいり

其のさのさしきさづんげこ

説名義相主人イハトシ母と在也 義相イハトシ多初と義相イハトシとさすさ

あこほす

ひらきわいり

まへへりきさづんげこ

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり  
一いちこまきまきまきまきまきまき  
二にこまきまきまきまきまきまき  
三さんこまきまきまきまきまきまき  
四しこまきまきまきまきまきまき  
五ごこまきまきまきまきまきまき  
六ろくこまきまきまきまきまきまき  
七しちこまきまきまきまきまきまき  
八はちこまきまきまきまきまきまき  
九くこまきまきまきまきまきまき  
十じゆこまきまきまきまきまきまき

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひらひらまき

茶正ちやまちやまのひらひらけりしり

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

天地時候

ひよりのこと

相、他の国の朝と...  
相、他の国の朝と...  
相、他の国の朝と...

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

日本社記  
云は布流

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

ひんがし

あまのついでに...  
あまのついでに...  
あまのついでに...

ひしげり

幸上達部のひしげりこそそのまゝうと在注：曜のなまゝと云所しつらゝの  
ていふまゝしとて李部王託曰親王公卿著平張座と在和名か周礼の注よりて  
平張曰帝和名比良波利と在梅ひたりとけりこれ天幕日重復の部

○人倫支体

ひまじり

相元服のまの母の人ちうわらり母のまのひまじりはちて

ひんこり

一まゝのせり

ひんくま

まのひまじり

ひんくま

まのひまじりうのりう河虎子オホコのまのまゝとて数字源終わるとは序より  
おひてあらんすまゝとて紐よりとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて  
おひてあらんすまゝとて紐よりとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

ひんくま

夏顔のまのまゝとて佐指教海老や印とてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて

ひんくま

○生植氣瓶

ひんくま

終あのひりうのまのまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとて  
まのひまじり

ひき

ひき

雄馬をひきとせたりやとて和名鮎の字とて和名氷魚鮎魚とせたりとて  
 和名ひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて  
 是とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて  
 蚌と氷魚とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて

ひき

若くはひきとせたりやとて和名海産とてひきとてひきとてひきとてひきとて  
 契とて海産とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて

服食器財

ひき

赤みぶひきとせたりやとて和名青磁の焼物也陸色蒙詩九秋の青磁越国  
 開奪得千峯秘色来越国とて焼物とて和名天子の所物とてひきとて  
 千峯とて青磁とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて

ひき

美くはひきとせたりやとて和名主人の所物とてひきとてひきとてひきとてひきとて  
 主人の所物とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて  
 とてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて

ひき

ひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとてひきとて



まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるしをあらわす

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるし

まのしるしをあらわす

まのしるしをあらわす





六、いづれも... 義母、晴晴日記... 二帖、之梅の... 幕... 終園... 二張、軟障

五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、... 十一、... 十二、... 十三、... 十四、... 十五、... 十六、... 十七、... 十八、... 十九、... 二十、... 二十一、... 二十二、... 二十三、... 二十四、... 二十五、... 二十六、... 二十七、... 二十八、... 二十九、... 三十、... 三十一、... 三十二、... 三十三、... 三十四、... 三十五、... 三十六、... 三十七、... 三十八、... 三十九、... 四十、... 四十一、... 四十二、... 四十三、... 四十四、... 四十五、... 四十六、... 四十七、... 四十八、... 四十九、... 五十、... 五十一、... 五十二、... 五十三、... 五十四、... 五十五、... 五十六、... 五十七、... 五十八、... 五十九、... 六十、... 六十一、... 六十二、... 六十三、... 六十四、... 六十五、... 六十六、... 六十七、... 六十八、... 六十九、... 七十、... 七十一、... 七十二、... 七十三、... 七十四、... 七十五、... 七十六、... 七十七、... 七十八、... 七十九、... 八十、... 八十一、... 八十二、... 八十三、... 八十四、... 八十五、... 八十六、... 八十七、... 八十八、... 八十九、... 九十、... 九十一、... 九十二、... 九十三、... 九十四、... 九十五、... 九十六、... 九十七、... 九十八、... 九十九、... 一百、...

せんかののそき

菜、せんかのま、... 合、... 載、折、敷、也

す ○虚詞人事

すげちま

相、すげちま、... 海、日本紀、... 人、... 記、... 也

すづい

相、すづい、... 又、... 記、... 也

すゝあ

冷き水とて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
飲のこもあつたりしとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
とて甚涼と飲のこもあつたりしとて甚涼のまじり甚涼にすむるも

すまひ

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すまひ

すま

漢書之卒也他書に不足とて甚涼のまじり甚涼にすむるも

すまひ

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すまひ

すま

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すま

すま

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すま

すま

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すま

すま

早よとて甚涼のまじり甚涼にすむるも  
すま

すみずみ

終末の暁と夜明けの霞  
River of the

せんせ

花の香りとあふみは  
すんちやうとあふみは  
益の光とあふみは  
すんちやうとあふみは

すみずみ

すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは

中將のうた  
すんちやうとあふみは

すみずみ

花のうた  
すんちやうとあふみは

○天地時候

すみずみ

未だひびきのさけ折強  
すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは  
すんちやうとあふみは

○人倫支体

すみずみ

和のうたのうたのうた  
すんちやうとあふみは

大曜の行座以運命一考也

すずくわ

景、すずくわはひと人の國にありて、  
と云國衛庄園のゆるとる行と人との國とを  
すずくわ

玉、これよりすずくわは、  
つゆいれくわは、

生植氣形

すずくわ

姫カハスの印の不化、  
この印の

このまゝに和名抄蝦のまゝ

○服食黒財

すずくわ

其、やうするの國、  
海注、

すずくわ

鏡、左ハ、  
今依、

すずくわ

すずくわ

夏、まゝ

今付与合...  
...  
...  
...  
...

